十日町市博物館 年報

— 第 10 号 —

令和 5 年度

十日町市博物館
TOKAMACHI CITY MUSEUM

TOPPAKU

刊行にあたって

当館は昭和 54 年 (1979) の開館以来、「妻有地方の自然と文化」をテーマに掲げ、「雪」と「織物」と「信濃川」を柱に、博物館友の会と車の両輪のごとく協力して活動を続けてきました。その中で、重要文化財「越後縮の紡織用具及び関連資料 2,098 点」(昭和 61 年指定)、同「十日町の積雪期用具 3,868 点」(平成 3 年指定)、すばらしい造形美を誇る火焔型土器を含む国宝「新潟県笹山遺跡出土深鉢形土器 57 点 (附 871 点)」(平成 11 年指定) を生み出しています。コロナ禍と同時の船出となった新館もオープンして 4 年目を迎え、コロナ禍以前の状況に戻りました。本書をご覧いただき、ご指導ご鞭撻いただければ幸いです。

十 日 町 市 博 物 館

目　　次

Ⅰ　館の運営 …… 1
　1．来館者の状況 …… 1
　2．博物館協議会 …… 2
　3．ミュージアムグッズ開発 …… 2
　4．予　算 …… 3
Ⅱ　事業の概要 …… 4
　1．教育普及・展示事業 …… 4
　2．資料収集・調査研究・保存対策事業 …… 7
　3．資料の貸出 …… 8
　4．その他の事業 …… 9
　5．博物館友の会 …… 11
Ⅲ　調査・報告
　報告「十日町市野首遺跡出土の種実圧痕土器」 菅 沼 亘 …… 12
利用案内 …… 17

例　　言

1．本書は、十日町市博物館の令和 5 年度の事業報告である。
2．本書に掲載されている写真の無断掲載 (転載) を禁じる。すべての著作権は十日町市博物館と撮影者・提供者に帰属する。
3．本書の編集は菅沼　亘 (学芸員) が行った。原稿の執筆は職員で分担し、文末に氏名を明示した。
4．本年度の事業を行うにあたり、関係諸機関および多くの皆様から多大なるご協力をいただいた。お礼申し上げる。

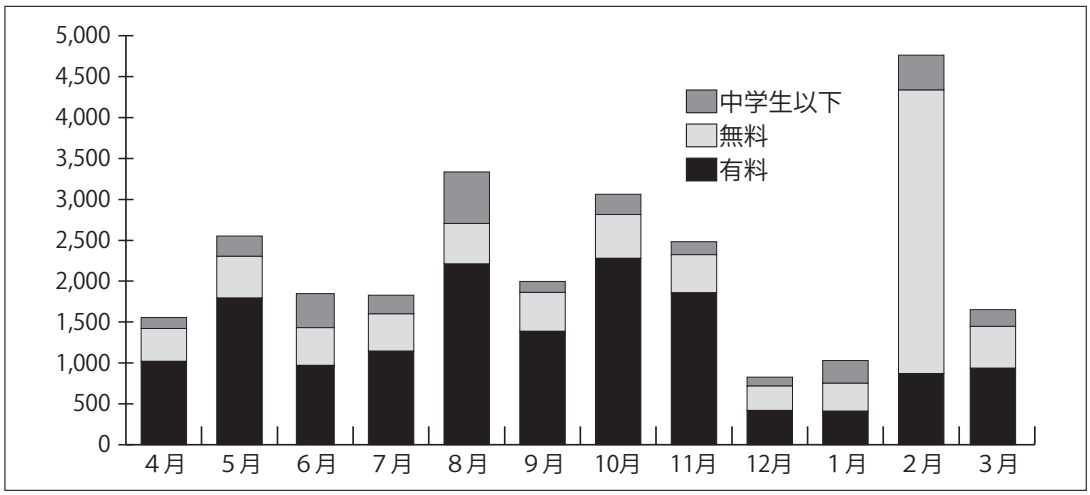
(表紙写真：「縄文時代と火焔型土器のクニ」展示室)

Ⅰ　館の運営

１．来館者の状況

①月別の推移

区　　分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数		26	26	26	26	27	26	26	26	19	21	22	27	298
一般	有　料	1,019	1,795	968	1,143	2,210	1,384	2,281	1,858	417	408	873	934	15,290
	無　料	402	508	463	457	497	480	535	465	299	344	3,464	513	8,427
計		1,421	2,303	1,431	1,600	2,707	1,864	2,816	2,323	716	752	4,337	1,447	23,717
中学生以下		133	247	416	229	626	133	246	157	110	279	425	203	3,204
合　　計		1,554	2,550	1,847	1,829	3,333	1,997	3,062	2,480	826	1,031	4,762	1,650	26,921



月別来館者数の推移

②学校団体受け入れ状況

	小　学　校
1	下条小学校３年生
2	吉田小学校５・６年生
3	橘小学校３・５・６年生
4	十日町小学校３・４年生
5	松代小学校３・４年生
6	松之山小学校３年生
7	西小学校３・４・６年生
8	千手小学校３年生
9	川治小学校３年生
10	中条小学校３年生
11	田沢小学校３・６年生
12	田沢小学校１・３年生（支援学級）
13	東小学校３年生
14	南魚沼市立城内小学校５年生
15	南魚沼市立中之島小学校６年生

	小　学　校
16	飛渡第一小学校３・５・６年生
17	小千谷市立千田小学校６年生
18	長岡市立栃尾東小学校６年生
19	津南町立上郷小学校３年生
20	魚沼市湯之谷小学校６年生
21	東京都江戸川区上小岩第二小学校５年生
22	東京都江戸川区二之江小学校５年生
23	東京都武蔵野市立第一小学校５年生

	中　学　校
1	中条中学校１年生
2	ふれあいの丘支援学校中学部
3	かつやま子どもの村中学校1･2･3年生
4	福島県昭和村立昭和中学校３年生

	高校・専門学校・大学
1	松代高校１年生
2	十日町看護専門学校
3	長岡高等学校３年生
4	上越教育大学
5	実践女子大学　建築デザイン研究所
6	ﾋｭｰﾏﾝｷｬﾝﾊﾟｽのぞみ高等学校

	市内保育園
1	中里なかよし保育園
2	水沢南部保育園

	子ども関連団体
1	浦佐認定こども園
2	水沢公民館寺子屋教室

小・中学校・高校・大学ほか一覧

（滋野 結希）

２．博物館協議会

十日町市博物館協議会委員は８名で、２年の任期で委嘱している。協議会会議を年に２回開催し、各回の詳細は以下の通りである。

第１回：令和５年 11 月８日（水）13：30 ～ 15：30　委員７名出席

・令和５年度十日町市博物館事業について

・秋季特別展「笑ぅ縄文人 －縄文人の喜怒哀楽－」見学

第２回：令和６年３月 22 日（金）13：30 ～ 15：30　委員６名出席

・令和５年度十日町市博物館事業の実施状況について

・令和６年度十日町市博物館事業計画について

・冬季企画展「究極の雪国 建ものがたり」見学

氏　　名	職業・団体等	備　　考
宇都宮　正　人	十日町市博物館友の会　会長	社会教育
滝　沢　　梢	十日町市文化協会連合会　運営委員	社会教育
島　田　昌　幸	十日町市校長会 （十日町市立西小学校　校長）	学校教育
田　村　俊　郎	十日町市 PTA 連合会　会長 （十日町市立十日町中学校 PTA）	家庭教育
島　田　美智子	（一社）十日町市観光協会 松之山温泉　凌雲閣　大女将	学識経験者（観光分野）
阿　部　美記子	NPO 法人　地域おこし	公　募
引　間　佳　子	（有）引間建材	公　募
星　名　大　輔	（一社）十日町青年会議所	公　募

博物館協議会委員一覧（任期：令和５年４月１日～令和７年３月31日）

３．ミュージアムグッズの開発

当館と、株式会社フェリシモ (本社：神戸市中央区) が展開する「ミュージアム部」が、当館所蔵の縄文土器をテーマにコラボレーションして商品４点を開発した。フェリシモ「ミュージアム部」は、美術館・博物館などの魅力をカタログやウェブサイト、SNS などを通じて情報発信し、暮らしの中で楽しめるオリジナルグッズを企画している。コラボアイテムの概要は以下のとおりである。

国宝グッズ（写真提供：株式会社フェリシモ）

①古の多様な装飾性を楽しむ縄文土器ソックス (３種類)

国宝・火焔型土器 (指定番号１)、国宝・王冠型土器 (指定番号 17) 、国宝・在地系土器 (指定番号 39) の文様の美しさを立体的なデザインで楽しめる。１足 1,870 円 (税込み)

②国宝・火焔型土器　縄文雪炎スタッキングスープマグ (３種類)

国宝･火焔型土器 (指定番号１) の特徴的な部位「鶏頭冠突起」「トンボ眼鏡状突起」「逆Ｕ字状文」をプリントしたマグカップ。３つを重ねると火焔型土器の姿が完成。１個 2,420 円（税込み)

③国宝・火焔型土器　縄文雪炎クッションカバー

国宝・火焔型土器 (指定番号１) をほぼ原寸大で立体的に表現。１個 5,500 円 (税込み)

④国宝・王冠型土器ランチバッグ

国宝・王冠型土器 (指定番号 15) を細部までリアルにプリント。１個 3,410 円 (税込み)

これらの商品は、９月３日から当館ミュージアムショップのほか、フェリシモでも販売されている。

（村山　歩）

4．予　算

令和５年度の予算は以下のとおりである。　（湯澤 孝予）

歳入予算　（単位：千円、千円未満切り上げ）

款　　項　　目				
節	説　　明	当初予算額	補正額	補正後予算額
14款　使用料及び手数料	１項　使用料　　７目　教育使用料			
5. 博物館入館料	5. 博物館入館料	11,687	0	11,687
14款　使用料及び手数料	１項　使用料　　７目　教育使用料			
5. 博物館入館料	10. 施設使用者使用料	408	0	408
21款　諸収入	５項　雑入　　２目　雑入			
7. 教育雑入	1. 私用電話料	1	0	1
21款　諸収入	５項　雑入　　２目　雑入			
7. 教育雑入	2. 私用コピー使用料	1	0	1
21款　諸収入	５項　雑入　　２目　雑入			
7. 教育雑入	3. 施設使用者電気料	36	0	36
21款　諸収入	５項　雑入　　２目　雑入			
7. 教育雑入	53. 物品使用料	360	0	360
21款　諸収入	５項　雑入　　２目　雑入			
7. 教育雑入	67. 博物館物品販売収入	13,440	0	13,440
21款　諸収入	５項　雑入　　２目　雑入			
7. 教育雑入	70. 古文書講座資料代	30	0	30
21款　諸収入	５項　雑入　　２目　雑入			
7. 教育雑入	75. 博物館体験プログラム参加料	90	0	90
21款　諸収入	５項　雑入　　２目　雑入			
7. 教育雑入	98. その他雑入	1	0	1
	計	26,054	0	26,054

歳出予算　（単位：千円、千円未満切り上げ）

節	説　　明	当初予算額	補正額	補正後予算額
1. 報酬	会計年度任用職員報酬、博物館協議会委員報酬	5,287	0	5,287
3. 職員手当等	会計年度任用職員手当	627	0	627
7. 報償費	講師謝礼・指導者謝礼	353	0	353
8. 旅費	費用弁償・普通旅費	396	0	396
10. 需要費	消耗品費・燃料費・食糧費・印刷製本費・光熱水費・修繕料	26,571	△ 1,000	25,571
11. 役務費	通信運搬費・手数料・保険料・広告料	2,992	0	2,992
12. 委託料	館維持管理委託ほか	18,678	0	18,678
13. 使用料及び賃借料	ﾃﾚﾋﾞ受信料、機器・車両ﾘｰｽ、収蔵品管理システム利用料	795	0	795
18. 負担金ほか	日本博物館協会ほか負担金、自動車重量税	79	0	79
	計	55,778	△ 1,000	54,778

事業別歳出予算内訳　（単位：千円、千円未満切り上げ）

事　　業　　名	当初予算額	補正額	補正後予算額
一般経費	225	0	225
旧博物館施設維持管理経費	1,070	0	1,070
博物館施設維持管理経費（除排雪経費、コロナ対策経費含む）	36,828	△ 1,000	35,828
教育普及・展示事業（特別展示会事業含む）	3,892	0	3,892
資料収集・調査研究・資料保存対策事業	2,083	0	2,083
とおかまちスノーカントリーミュージアム魅力増進事業（文観計画・補助）	11,680	0	11,680
計	55,778	△ 1,000	54,778

Ⅱ　事業の概要

１．教育普及・展示事業

①教育普及事業

博物館講座

本講座は市民を対象としたもので毎年６月に行われ、昨年度は「究極の雪国を学ぶ」、本年度は「魚沼の歴史を学ぶ」がテーマである。各回の演題と講師は以下のとおりであり、全３回で計 54 人の受講者があった。今年度から受講料 500 円を徴収している。

第１回：６月 10 日（土）「歴史の道 八十里越」
　　渡部 浩二 氏（新潟県立歴史博物館 専門研究員）
第２回：６月 17 日（土）「魚沼の狩猟」
　　鈴木 秋彦 氏（新潟県民俗学会 理事）
第３回：６月 24 日（土）「発掘調査成果からみた
　　魚沼地域の古代について」
　　春日 真実 氏（公益財団法人 新潟県埋蔵文化財
　　調査事業団 専門調査員）

第１回博物館講座

古文書入門講座

本講座は古文書読解の初心者を対象としたもので、市内の史料をテキストにして古文書に親しむと共に、郷土の歴史を学ぶことを目的としている。昨年度に続き、講師は林 悦郎氏（博物館友の会・古文書研究グループ）にお願いした。今年度は「御仕置五人組帳前書 越後国魚沼郡 妻有庄 枯木又村」、「天明六年午五月 村指出明細帳控 魚沼郡 川治村」などをテキストとしている。６月から 11 月の土曜日（隔週・午前）に行われ、回数は全 12 回である。今年度の受講生は計 12 人、延べ参加人数は 100 人であった。また、受講生よりテキスト代（1,500 円）を徴収している。

子ども博物館

本事業は、小学生を対象とした体験教室である。今年度は、８月 20 日（日）に①「ヒスイに孔（あな）を開けてみよう」（参加費 300 円）、12 月９日（土）には②「土偶（どぐう）を作ろう」（参加費 500 円）を開催した。①では、ダイヤモンドより硬いと言われるヒスイと勾玉作りで使用される滑石を使用し、火起こし方法のきりもみ式やまいぎり式、弓ぎり式などで孔を開けることができるかどうか体験した。②では、オーブンで焼くことができる粘土を使用して、オリジナルの土偶を作った。いずれの体験においても、夏季企画展と秋季特別展のテーマに沿った内容で実施した。各回とも定員 10 名（事前申込）で、参加者は保護者合わせて計 40 名であった。

ヒスイに孔を開けてみよう

土偶を作ろう①

土偶を作ろう②

②展示事業

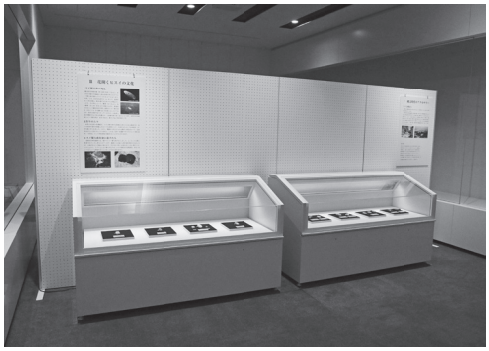
夏季企画展「縄文の宝石 ーヒスイー」

夏季企画展チラシ

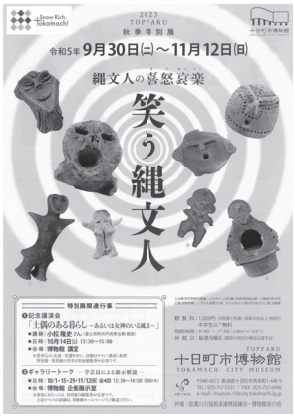
本展は、博物館友の会と信濃川火焔街道連携協議会との共催で開催された。会期は、7月22日（土）から8月27日（日）の37日間、会期中の入館者数は計3,885人である。

令和4年11月4日にヒスイが「新潟県の石」に指定された。ヒスイは縄文時代から古墳時代にかけてアクセサリーや石器を作る敲石（たたきいし）などに使用された石である。国内に約10か所あるヒスイ産地のうち、全国各地で発見されているヒスイ製品は糸魚川産のものであることが科学分析でわかってきた。縄文時代を中心に、新潟県内の遺跡から出土したヒスイ製装飾品やヒスイ原石標本約100点を集め、新潟県の新たなシンボルであるヒスイの魅力に迫った。

展示構成は、①「ヒスイはどんなもの？」、②「ヒスイ利用の歴史」、③「花開くヒスイの文化」、④「縄文時代のアクセサリー」である。①では、ヒスイがどのような岩石であるかを解説し、様々な色の原石標本を展示した。②は縄文時代、弥生時代～古墳時代の遺跡から出土したヒスイ製品を展示し、利用の歴史を解説した。③では、糸魚川市にある縄文時代中期にヒスイ製大珠の生産拠点と考えられる大集落の長者ヶ原遺跡の説明を行い、県内の遺跡から出土した大珠の展示を行った。④では、縄文時代のヒスイ以外の石材で作られた装身具を展示した。また、展示解説リーフレット（A3・二つ折り）を無料頒布した。


夏季企画展の展示状況

秋季特別展「笑う縄文人 ー縄文人の喜怒哀楽ー」



秋季特別展チラシ

本展は、博物館友の会と信濃川火焔街道連携協議会との共催で開催された。会期は、9月30日（土）から11月12日（日）の44日間、会期中の入館者数は4,803人（うち特別展の有料観覧者数2,799人）である。

土偶は、1万年以上続いた縄文時代の長きにわたり作られ続けた素焼（すや）きのひとがたをした土製品（どせいひん）である。一般的に女性をかたどった祭祀具（さいしぐ）と考えられ、時期や地域により様々な容姿をもち、特に顔の表情も多彩に表現されている。本展では重要文化財指定品を含む新潟県内及び関東・中部地方出土の土偶や人体装飾のある土器などを展示して、縄文人の感情表現に迫った。

展示構成は、①「土偶とは」、②「土偶いろいろ」、③「土器に描かれた人」である。①では、土偶がいつ頃出現し、どのようなものであるか、どのように作られているかを解説した。②は様々な姿と形の土偶が時期や地域によって異なることを紹介した。③では、人面や人物が描かれた土器などを展示した。

秋季特別展の展示状況

10月14日（土）の午後には、小松隆史氏（富士見町井戸尻考古館館長）を招いて、記念講演会「土偶のある暮らし～あるいは女神のいる風景～」が開催され、39人が参集した。また、展示図録を刊行し、ミュージアムショップで販売している。

冬季企画展「究極の雪国 建ものがたり」

本展は、博物館友の会との共催で開催された。会期は、令和６年２月17日（土）から３月24日（日）の37日間、会期中の入館者数は2,172人である。

令和２年（2020）に十日町市のストーリー「究極の雪国とおかまち―真説！豪雪地ものがたり―」が「日本遺産」に認定された。このストーリーは、「着ものがたり」「食べものがたり」「建ものがたり」「まつりものがたり」「美ものがたり」の五つの物語で構成されている。本展では、当館が所蔵する重要有形民俗文化財「十日町の積雪期用具3,868点」（平成３年指定）の中から住生活用具を展示して、雪国の建物文化の知恵を紹介した。

冬季企画展チラシ

展示構成は、①「雪国の住生活用具」、②「風と雪を防ぐ－防風雪用具－」、③「雪を除く－除雪用具－」、④「暖をとる－暖房用具－」、⑤「雪国の建物」である。①では、日常生活の中心となる家で使用される住生活用具を解説した。②は、農作物の取り入れ後から始まる「冬じたく」、建物や庭木などの雪囲い、防風雪用具について紹介した。③では、雪を除くための除雪道具を展示し、「コシキ（コスキ）」の種類や茅屋根の雪掘り方法を解説した。④では、家の中で使用する暖房用具を展示した。⑤は、雪国で生まれた建築様式や、近年みられる建物について紹介した。また、展示解説リーフレット（A3・二つ折り）を無料頒布した。

冬季企画展の展示状況

特設展示「昔の道具」

市民から寄贈された昭和の道具類を集めた。会期は、令和６年１月４日（木）から１月28日（日）である。道具を使用されていた場面ごとに分けて展示し（日常生活、学校・職場、趣味・娯楽）、現在では失われつつある昭和の暮らしを紹介した。また、会場内では石臼の粉挽（こなひ）き体験やＯＨＰの投写体験、二眼レフカメラを覗（のぞ）く体験などを行った。小学３年生の総合学習（昔のくらし）での利用に伴い、計154人（８校）が見学した。（笠井 洋祐）

特設展示「昔の道具」の展示状況

③まちの文化歴史コーナー

十日町市市民交流センター１階の「まちの文化歴史コーナー」（愛称：HAKKAKE）において、博物館収蔵資料の展示を行った。今年度は、来訪者に十日町市の通史的な理解を深めてもらうために関連する資料を展示した。「原始の十日町～縄文時代（１）～」野首・笹山遺跡出土品（5/10～7/3）、「原始の十日町～縄文時代（２）～」中島・樽沢開田遺跡出土品（7/5～9/4）、「古代の十日町～古墳時代～」馬場上・柳木田遺跡出土品（9/6～11/6）、「古代の十日町～奈良・平安時代～」社畑・河原田遺跡出土品（11/8～1/11）、「中世の十日町～鎌倉・南北朝期～」笹山・河原田遺跡出土品（1/12～2/26）、「中世の十日町～室町・戦国時代～」南谷内・伊達八幡館跡出土品（2/28～4/8）である。

また、「まちなか国宝展示」として「十日町きものまつり」（5/3）にあわせ、火焔型土器（指定番号９）の実物を展示した。同日には、近隣にある十日町市市民活動センターの１階ギャラリーにおいて、十日町のきもの歴史展を開催している。（石原 正敏）

④博学連携

市内の小･中学校で、出前授業を以下のとおり実施した。鐙島小学校:縄文土器作り体験（9月12日）・土器焼き（10月3日）、中条小学校：笹山遺跡・縄文館展示解説（10月2日）、下条小学校：縄文講座（10月31日）・勾玉作り（11月7日）、下条中学校：縄文講座（7月7日）　（阿部　敬）

⑤職場体験

松代中学校2年生1名（7月6日・7日）、十日町中学校2年生3名（7月11日・12日）、川西中学校2年生1名（7月20日）、十日町高等学校松之山分校2年生2名（7月21日･8月8日･9日）の計7名（8日間）を受け入れた。体験内容は、開館・ガラス拭き作業、ミュージアムショップ商品準備、受付窓口業務、収蔵庫掃除などを行った。　（滋野 結希）

⑥縄文体験

令和3年度より、第2･4日曜日の午後に一般の来館者を対象とした体験メニューを行っている。今年度は、5～11月に勾玉作りと土器拓本しおり作りを実施した。体験料は300円（大人・小人とも）である。計97人が参加している。　（笠井 洋祐）

⑦その他

ＴＯＰＰＡＫＵナイトミュージアム ―博物館で冬ごもり―

令和6年1月26日（金）に開催したＴＯＰＰＡＫＵナイトミュージアム―博物館で冬ごもり―では、午後9時まで開館時間を延長し、学芸員による移築民家での特別解説や、実物の土器片からとったシリコン型で土器チョコを作るワークショップのほか、「婿投げ･スミ塗り」のＶＲ視聴体験、昔の遊び体験、チンコロ販売などを実施した。博物館のライトアップも行い、親子連れや仕事帰りの大人など約80人が入館した。　（滋野 結希）

ＴＯＰＰＡＫＵパーク

令和6年2月17日（土）に開催された「第75回十日町雪まつり」に合わせて、博物館の周辺がイベント会場「ＴＯＰＰＡＫＵパーク」となった。館内では、重要有形民俗文化財「越後縮の紡織用具」に関連する文化観光体験プログラム「きもの工房体験」を企画し、体験学習室では「摺（す）り友禅体験」、講堂では「手織り体験」を実施した。そのほか、学芸員による展示解説を行い、日本遺産紹介コーナーを設置し、3,175人が入館した。館外では、重要有形民俗文化財「十日町の積雪期用具」に関連する文化観光体験プログラム「TOPPAKU チャレンジ」を実施した。正面駐車場では、キッチンカーやスノウリッチ＊スポット店（日本遺産「究極の雪国とおかまち」の魅力を伝えるガイドがいる施設）が、屋台を出店して憩いの場を創出し、会場全体で8,712人の来場者があった。　（相崎 文幸）

２．資料収集・調査研究・保存対策事業

①資料の収集

博物館では、市民等から十日町市の歴史文化を伝える古文書、写真、民具、着物等の寄贈・寄託を受け付けており、今年度は23件（資料番号15391～15413、令和6年3月15日現在）を受贈した。主なものとしては、古文書等歴史資料（東善寺・喜多庄屋家文書、山本遠山森林生産組合資料、宮下町水車六人衆資料）、民具（明治31年牧畑集落十二神社幟旗、大白倉高札、水沢商家資料、庚申講資料、花見用携行重箱）、着物（御召細目格子縮緬、紬絣）などがあげられる。近年、市民の転居や転出に伴い、家屋や土蔵などの取り壊しが続き、資料の寄贈・寄託の相談が増加傾向にある。今後も適切に収蔵・整理し、活用につなげていく必要がある。　（髙橋 由美子）

②調査研究

「十日町市博物館研究紀要」第３号（オンラインジャーナル）を公開した。内容は以下の通りである。「地域博物館を考える（１）― 調査・研究と普及活動 ―」（石原正敏）、「縄文給食を作る― 総合学習の博学連携 ― 」（阿部 敬）。（阿部　敬）

③資料の保存

博物館の着物収蔵庫や旧館収蔵庫に保管されている着物や古文書については、タンスや保存箱に除湿剤や害虫忌避剤を投入し管理している。新規に受け入れた古文書群については、新潟県立文書館に委託して燻蒸を行った。（髙橋 由美子）

３．資料の貸出

①実物資料の貸出

貸出状況は以下のとおりである。今年度は長野県立歴史館の他、新たに塩尻市立平出博物館と藤岡歴史館との間で相互資料貸借を実施した。（笠井 洋祐）

貸　出　先	資　料　名（点数）	目　的（展覧会名・会期など）
新潟県埋蔵文化財調査事業団	柳木田遺跡土器３点	令和５年度企画展１「発掘された名前」（4/21 ～ 12/17）
新潟市文化スポーツ部歴史文化課	国宝・笹山遺跡火焔型土器（№1）レプリカ1点	Ｇ７新潟財務大臣・中央銀行総裁会議（5/11 ～ 5/13）
ギリシャ・イラクリオン考古博物館（東京国立博物館）	野首遺跡火焔型土器1点	特別展「日本の美の原点」（6/2 ～ 9/24）
長野市立博物館	重文・スカリ２、カンジキ１、ミ１、ミズトオシ１、チャワンカゴ１、テカゴ１点、計７点	企画展示「丈夫で美しい―戸隠の竹細工とくらし―」（7/15 ～ 9/24）
北海道博物館	国宝・笹山遺跡火焔型土器（№4・5）２点、国宝・笹山遺跡王冠型土器（№15）１点、計3点	第９回特別展「ユネスコ世界遺産登録記念 北の縄文世界と国宝」（7/22 ～ 10/1）
新潟県立歴史博物館	森上遺跡火焔型土器1点	令和５年度山の洲文化財交流展「発掘が語る地域交流―フォッサマグナがつなぐ新潟 長野 山梨 静岡―」（9/9 ～ 10/15）
長岡市馬高縄文館	珠川Ａ遺跡石棒1点、ぼんのう遺跡石棒1点、土製品８点、伯父ヶ窪Ｂ遺跡石棒1、幅上遺跡土製品10点、大井久保遺跡土偶1点、計22点	秋季特別展「土偶と石棒―縄文の精神文化―」（9/23 ～ 11/5）
株式会社第一印刷所	国宝・笹山遺跡火焔型土器（№1）レプリカ1点	大阪ツーリズム EXPO ジャパン（10/26 ～ 10/29）
長野県立歴史館	森上遺跡火焔型土器1点	資料相互貸借（4/1 ～ 11/30）
塩尻市立平出博物館	大井久保遺跡火焔型土器１点	資料相互貸借（8/21 ～ 12/1）
藤岡市歴史館	カウカ平Ａ遺跡火焔型土器１点	資料相互貸借（8/21 ～ 12/1）

実物資料の貸出一覧

②写真資料の貸出

写真資料の貸出件数は計 110 件（2 月 29 日現在）、主な貸出状況は以下のとおりである。国宝・笹山遺跡火焔型土器などの考古資料が約７割を占めている。使用目的では教材・テストなど教育関連が最も多い。近年は、縄文が注目され TV や書籍・雑誌での使用も増加している。（春川 奈嘉子）

貸　出　先	出　版　物	貸　出　資　料	備　考
株式会社かみゆ	「日本史 AERA with Kids(仮)」	国宝・笹山遺跡出土　深鉢形土器	書　籍
株式会社廣済堂出版	「今日、誰のために生きる?」		書　籍
株式会社主婦と生活社	「日本歴史カード改訂版」		書　籍
有限会社どんぐり・はうす	「地球の歩き方ムー JAPAN」		雑　誌
企画・編集工房あみや	「子どもに伝えたい和の技術 14 やきもの」		書　籍
株式会社テレビ朝日	番組「くりぃむクイズ ミラクル 9」	常設展示「縄文のクニ」、石鏃・石槍・石皿・磨石、国宝展示室	放　送
株式会社 ABC アーク 歴史人編集部	月刊誌「歴史人」	国宝 笹山遺跡出土火焔型土器(指定番号1)、笹山遺跡の炉の遺構	雑　誌
株式会社ニューズ・ライン	新潟 Komachi	十日町市博物館外観	雑　誌
グローカルマーケティング㈱	トキっ子くらぶ「トキっ子ラウンジ」		
	おでかけすぽっと		

写真資料の貸出一覧（主要なもの）

４．その他の事業

①スノーカントリーミュージアム事業

本事業は、文化庁の文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業に伴うものである。令和２年に認定された十日町市の地域計画「とおかまち　スノーカントリーミュージアム―雪の中の ARTS & CULTURE―」の中で、博物館は文化観光拠点施設のひとつに位置付けられている。以下の事業を実施した。

博物館所蔵文化遺産体験事業

本事業は、博物館が所蔵する国宝と重要有形民俗文化財への理解をより深められるよう、観光客にこれらを体験する機会を提供するものである。事業者に業務委託し、雪国の生活体験プログラム開発、重要有形民俗文化財に関連した体験プログラムの開発、積雪期用具の製作を実施した。昨年の雪国の生活体験プログラムで開発したホンヤラドウやハコゾリ、しみわたりなどの雪遊びを体験するプログラムの更なる磨き上げを行っている。また、令和６年２月 17 日（土）に開催された第 75 回十日町雪まつりに合わせ、二つの重要有形民俗文化財「十日町の積雪期用具」、「越後縮の紡織用具及び関連資料」に関連する文化観光体験プログラムを開発し、ＴＯＰＰＡＫＵパークにおいて実施した。なお、体験プログラムを実施する事業者に貸し出す積雪期用具も製作している。　（相崎 文幸）

雪国の遊び体験

摺り友禅体験

手織り体験

博物館収蔵資料デジタルアーカイブ化事業

本事業は博物館所蔵資料のデジタルアーカイブを公開することにより、文化観光資源として収蔵資料を有効活用し、展示解説と情報発信の充実を図るものである。今年度は、令和３年度に取得した３次元計測データを利用して、国宝・笹山遺跡土器のデジタルアーカイブを作成した。デジタルアーカイブは、「3D で見る国宝・火焔型土器群」として常設展示室のタッチパネルモニターで公開している。また、令和６年４月以降は、博物館ホームページ上で閲覧可能となる予定である。　（菅沼　亘）

3D で見る国宝・火焔型土器群

博物館所蔵文化財に関する人材育成事業

本事業は博物館が所蔵する文化財に関連し、地域に伝承されてきた技術を継承する人材を育成するものである。昨年度に引き続き、博物館友の会に業務を委託して、雪国の暮らし講習会を開催した。講習会メニューは、わら細工（２月４日、２月 11 日、２月 18 日）、アンギン編み（３月３日、３月 10 日）、募集定員はそれぞれ 10 人（参加費無料）である。参加人数は計 33 人であった。

わら細工

文化観光拠点施設連携企画展等開催事業

本事業は、文化観光拠点施設である博物館と森の学校キョロロ、十日町情報館が相互に連携して企画展等を行い、観光客の周遊を向上させ、入館者の増加を図るものである。冬季企画展において、TOPPAKU ×キョロロ連携展示の「十日町市の学芸員・研究員が紹介したくてしかたないスノウリッチ＊とおかまち」を実施した。

また、令和６年３月13日（水）から24日（日）に第15回山内写真館資料写真展「昭和の十日町～山内与喜男×駒形さとし 二人展～」を開催した。会場は十日町情報館ギャラリー、会期中の入場者は約1,500人である。これに合わせて、キョロロがミニ展示「この木なんの木、使える木」を行い、情報館は雪国の暮らしや動植物に関連する図書の特設コーナーを設置した。　（笠井 洋祐）

山内写真館写真資料展

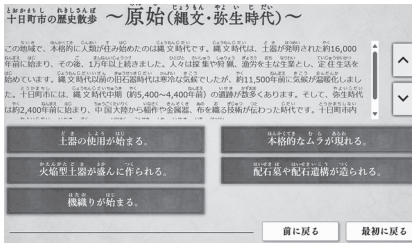
文化財を活用した商品開発事業

本事業は、博物館が所蔵するコレクションや日本遺産認定ストーリーの構成文化財等を活用した商品開発の促進に取り組み、文化観光拠点施設や文化資源への回遊意欲の向上及び各拠点施設における消費喚起と消費額の拡大を図り、その収益を文化資源の保存継承につなげることを目的としている。今年度は、博物館ミュージアムショップの協力事業者や、日本遺産「究極の雪国とおかまち」のスノウリッチ＊スマートガイドを対象に、商品開発の機運醸成と実際の開発までの方向性を決定することを目指したワークショップと専門家による個別相談を実施した。　（村山　歩）

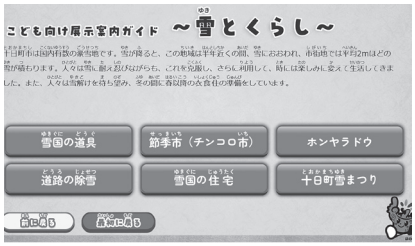
博物館魅力増進事業

本事業は、文化観光拠点施設として博物館の魅力を増進し、入館者数の増加を図ると共に、市内来訪者の回遊性を向上させることで地域の活性化を図るものである。今年度は、博物館ロビーに設置されている展示解説モニターのコンテンツをリニューアルした。既存のコンテンツである「十日町市の文化財」に、「十日町市博物館の紹介」「十日町市の歴史散歩」「こども向け展示案内ガイド」を追加している。十日町市の歴史散歩は当市の歴史を通史的に紹介するものである。子ども向け展示案内ガイドは、市内小中学校の社会科副読本「わたしたちの十日町市」（小学3･4年生用）と「ふるさと十日町」（小学５年生～中学３年生用）に連動する内容とした。　（菅沼　亘）

メニュー選択画面



十日町市の歴史散歩・原始



子ども向け展示ガイド・雪とくらし

②雪文化三館提携事業

３館相互の入館者数増加を図り、３館提携事業を広く周知するため、スタンプラリー及び２割引きの優待付きパンフレットを13,000部増刷し、観光施設などのほか高速道路ＳＡへ配置をした。スタンプラリーについては、３館すべてのスタンプを集めた来館者に記念品を贈呈しており、令和５年度の当館でのスタンプラリー 達成者は19名（令和６年３月14日時点）であった。（滋野 結希）

５．博物館友の会

博物館友の会は昭和54年(1979)に発足し、会員は令和６年２月末現在で約530名である。総会、庚申供養祭、文化財巡り、研究グループ懇談会、友の会だより『火焔』の発行、研究グループ発表会などのほか、博物館との共催事業を行った。また、８つの研究グループ（植物･古文書･いしぶみ･歴史・民俗・方言・考古・きもの）が研究活動を行った。今年度の主な活動は以下のとおりである。

令和５年

４月15日(土)　令和５年度・総会

５月20日(土)　「火焔」146号発行
巻頭言（菅沼館長)、令和５年度・事業計画、令和５年度博物館事業のお知らせ、令和４年度・研究グループ発表会ほか

６月７日(水)　第94回文化財巡り「木下大サーカスと新潟市天寿園の旅」
参加費10,000円、参加者24人

７月８日(土)　庚申供養祭（参加者：26人）

７月21日(金)　研究グループ懇談会

９月16日(土)　「火焔」147号発行
巻頭言（方言研究グループ・上村 弘道)、下条地区振興会の取組「地域の歴史的財産・伝統文化を継承するプロジェクト活動」の紹介、６～７月の主な活動報告、令和５年度後半期の博物館事業のお知らせ、第94回文化財巡りに参加して

10月19日(水)　第95回文化財巡り「秋の上越３館巡りの旅」　※中止

令和６年

２月10日(土)　「火焔」148号発行
巻頭言（いしぶみ研究グループ・田山 道子)、９～12月の友の会と博物館の主な活動報告、冬季の友の会と博物館の活動紹介、「雪国のくらしの技」講習会ほか

２月17日(土)　第75回 十日町雪まつり「TOPPAKUパーク」参加
甘酒の無料提供、記念撮影コーナーの設置

３月16日(土)　研究グループ発表会（会場：博物館 講堂）
民　　俗　「鉢の石仏開祖 明屋有照画賛の掛軸について」
植　　物　「松之山の花」
古 文 書　「年貢割付状をよむ －東善寺村文書より－」
方　　言　「意外な十日町の方言」
いしぶみ　「中条のいしぶみ」
き も の　「十日町織物メーカーの資料サンプル探求」
考　　古　「日本遺産『「なんだ、コレは！」信濃川流域の火焔型土器と雪国の文化』について」

（石原 正敏）

庚申供養祭

雪まつり TOPPAKU パーク

Ⅲ　調査・報告

報告

十日町市野首遺跡出土の種実圧痕土器

菅　沼　　亘

1．はじめに

十日町市上新田（かみしんでん）地内に所在する野首（のくび）遺跡は、縄文時代の遺跡である。1996 年（平成8）に県営圃場整備事業に伴い、十日町市教育委員会により発掘調査が行われ、縄文時代中・後期の環状集落（集落 1）が発見された。集落 1 に隣接する土器捨て場からは、膨大な量の土器・土製品、石器・石製品が出土し、中でも復元された 19 点の火焔型・王冠型土器が注目されている。遺構及び出土品の詳細については、発掘調査報告書を参照願いたい（十日町市教育委員会編2011・2017・2020）。また、2020 年（令和2）には出土品 1,290 点が、新潟県指定有形文化財（考古資料）に指定されている。

今回報告する資料は、報告書作成に伴う土器の整理作業の過程で発見された種実の圧痕をもつ土器である。一部の資料については、発掘調査報告書において詳細な観察と分析が行われている（丑野 2017・佐々木ほか 2017）。以下、これらと合わせて未報告資料を中心に紹介する。

2．既報告資料の概要

これまでに報告された種実圧痕は計12 点（圧痕1 ～12）であり（表1）、レプリカ法により種実の同定が行われている（佐々木ほか前掲）。レプリカ法とは、土器の表面に残された凹みにシリコン樹脂を注入して型をとり、このレプリカを走査型電子顕微鏡で観察する方法である（丑野・田川 1991）。12 点の内、10 点の圧痕について種実が同定されている（残り2 点は不明）。シリコン型の採取は、文化財課嘱託調査研究員（当時）が行った（写真13）。

圧痕が観察された土器の器種は浅鉢1 点を除いて、その他はすべて深鉢である。これらの所属時期は中期前葉～後期中葉に及び、個体数で見ると中期4、後期3、不明1 点となっている。圧痕が残されている部位は、口縁部内面1、胴部外面5、胴部内面3、胴部断面2、底部外面1 点である。

同定された種実は、中期ではマメ科種子1（写真1）、ダイズ属種子1（写真2）、エゴマ果実1（写真3）、ヌスビトハギ属果実1（写真4）、ササゲ属アズキ亜属種子1 点（写真5）の計5 点、後期ではダイズ属種子4（写真7・9 ～11）、不明種実1 点（写真8）の計5 点であった。また、中期前葉の小形土器からは、マメ科種子、ダイズ属種子、エゴマ果実の3 点の圧痕が得られている（写真1 ～3）。

なお、中期のササゲ属アズキ亜属種子1、ダイズ属種子1 点は野生型、後期のダイズ属種子4 点の内、3 点は栽培型、1 点は中間型と推定されている。

番号	器種	出土位置	時期	確認部位	同定結果	長さ	幅	厚さ	備考
1	深鉢	土器捨て場(JF2)	中期前葉	口縁部(内面)	マメ科種子	6.33	3.59	3.7	No.1～3は同一個体内
2	深鉢	土器捨て場(JF2)	中期前葉	胴部(内面)	ダイズ属種子	5.33	4.1	(2.90)	野生型
3	深鉢	土器捨て場(JF2)	中期前葉	胴部(外面)	エゴマ果実	2.28	2.08		
4	浅鉢	土器捨て場(JJ1)	中期中葉	胴部(内面)	ヌスビトハギ属果実	8.00	5.38	1.72	
5	深鉢	土器捨て場(JI1)	中期	胴部(内面)	ササゲ属アズキ亜属種子	4.06	3.55	3.04	野生型
6	深鉢	集落1(EN3)	中期末葉(大木10式)	胴部(外面)	不明(種実以外)	(6.06)	2.87		
7	深鉢	土器捨て場(EL15)	後期初頭(三十稲場式)	胴部(外面)	ダイズ属種子	10.54	6.43	4.67	No.7・8は同一個体内、栽培型
8	深鉢	土器捨て場(EL15)	後期初頭(三十稲場式)	胴部(断面)	不明果実	(4.28)	(4.62)		
9	深鉢	集落1(ED4)	後期初頭？	胴部(断面)	ダイズ属種子	10.37	(3.21)	(3.31)	No.9・10は同一個体内、栽培型
10	深鉢	集落1(ED4)	後期初頭？	胴部(外面)	ダイズ属種子	11.51	(5.18)	4.94	栽培型
11	深鉢	集落1(AK11)	後期前葉～中葉	胴部(外面)	ダイズ属種子	7.32	4.00	3.51	中間型
12	深鉢	土器捨て場(JN1)	不明	底部(底面)	不明	14.65	11.05		
13	深鉢	集落1(FG4)	中～後期	底部(底面)	トチノキ属種子(推定)				同定調査なし
14	深鉢	土器捨て場(EI15)	中～後期	底部(底面)	トチノキ属種子(推定)				同定調査なし

表 1 野首遺跡の土器圧痕一覧　　単位はmm

写真 1 圧痕 1

写真 2 圧痕 2

写真 3 圧痕 3

写真 4 圧痕 4

写真 5 圧痕 5

写真 6 圧痕 6

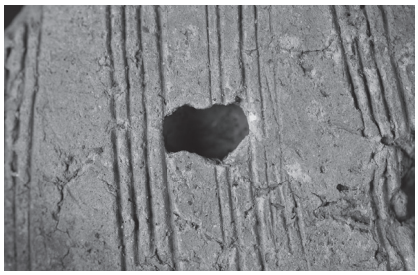


写真 7 圧痕 7

写真 8 圧痕 8

写真 9 圧痕 9

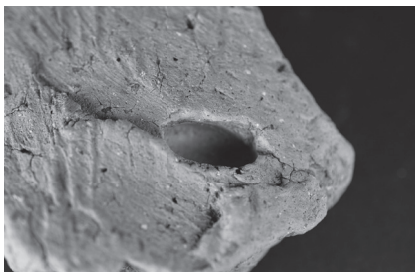


写真 10 圧痕 10

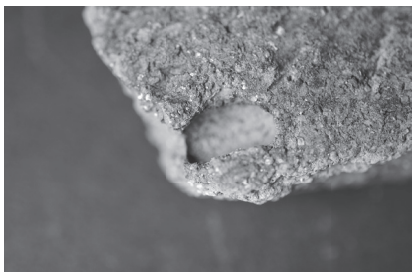


写真 11 圧痕 11

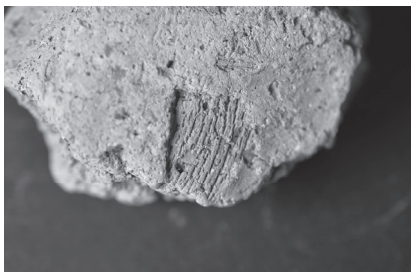


写真 12 圧痕 12

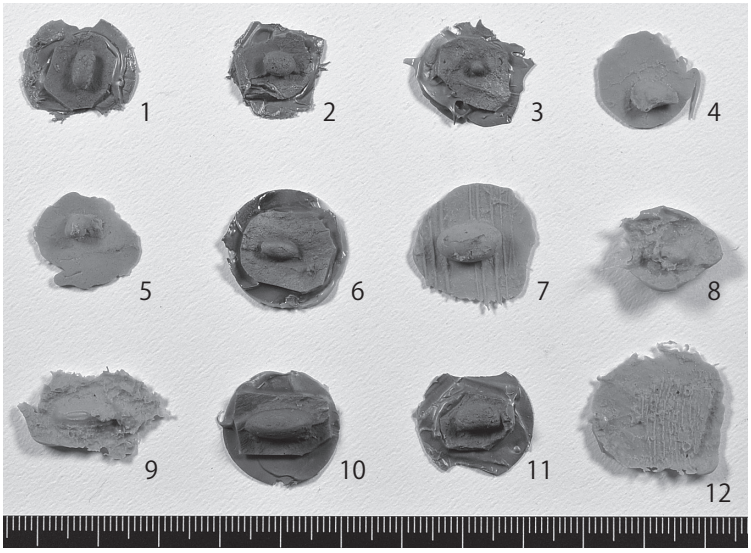


写真 13
圧痕 1 ～ 12 のシリコン型

３．未報告資料の記載

未報告資料は２点である。前述した既報告資料の番号に続けて、圧痕 13、14 とする。以下、それぞれについて記載する。

①圧痕 13（写真 14 ～ 16）

深鉢底部の底面（外面）に残された圧痕である（写真 14）。底部は径 13.3、厚さ 3.1cm を測り、底面の縁辺を欠損する。集落 1（包含層）から出土しており、所属時期は中～後期と思われる。内面に底部下端部がわずかに残り、胴部の厚さは 1.5cm である。粗製の深鉢で、胎土は粗く、黄白色もしくは褐色の凝灰岩の他に、砂を多く含む。底面には敷物圧痕も含め、目立った調整痕は観察されない。

底面の縁辺から 2cm ほどの所に、長径 2.9、短径 2.7、深さ 0.9 ～ 1.4cm の円形の凹みが残る（写真 15）。凹みの底面は緩やかな山形に突出する。断面形は壁面がほぼ直立する袋状で、壁面の一部では上に向かってわずかにすぼまる。凹み上面の縁辺は角がシャープである。この凹みにシリコン樹脂を注入し、型を採取して比較したところ、トチノキ属種子（トチの実）と類似することが分かった（写真 16）。また、内面にはトチの実が混入した際にできた器面の盛り上がりが観察される。

②圧痕 14（写真 17・18）

深鉢底部の底面（外面）に残された圧痕である（写真 17）。底部は外縁部片で、現存長 12.9、幅 7.1、厚さ 2.9cm を測り、残存率は 30％前後と推定される。復元できる底径は 15cm 前後である。土器捨て場（包含層）から出土しており、所属時期は中～後期と思われる。粗製の大形深鉢の底部であり、胎土は粗く、石英、凝灰岩など砂粒の他に、小石を多く含む。また、底面には敷物圧痕と思われる木葉状の条線を数本確認できる。

底面の外縁に円形の凹みが残り、径 2.9、深さ 0.8 ～ 1.1cm を計る。凹みの一端を欠失している（写真 18）。凹みの底面には凹凸があり、前述した木葉状の条線が十字状に残る。断面形は、上に向かってわずかにすぼまる浅い袋状である。凹み上面の縁辺は角が丸くなる。シリコン樹脂の型は採取していないが、圧痕 13 の凹みと大きさ、形態とも類似することから、トチの実の圧痕と判断した。

４．土器作りから見た種実圧痕

土器作りは大まかに、①粘土の採取、②素地づくり、③ねかし、④成形、⑤施文、⑥乾燥、⑦焼成の工程があると言われている（千葉市立加曽利貝塚博物館編 1995）。これらの工程の中で、土器の胎土に種実が混入する可能性が考えられるのは粘土が柔らかい段階である。焼成段階での混入は著しく困難であり、①～⑥いずれかの段階で混入したと推定される。⑥の段階でも粘土が乾燥しきって硬化した状態でなく、半乾燥状態までと考えられる。

圧痕1 ～5・7 ～11 の種実は、長さ2.28 ～11.51、幅2.08 ～4.10、厚さ2.08 ～4.94mm と小形であるため、①～⑥各段階での混入の可能性が考えられる。これに対して、圧痕13・14 は径29mm と大形であることから、混入の段階がある程度限定できる。②素地づくりは、採取した粘土を乾燥させて砕き、粘土の粉に砂などの混和材を入れ、水を加えて練り上げる工程である。採取した粘土にトチの実が混入していれば、粉砕した段階で実が除去される可能性が高い。次の③ねかしは、練り上げた素地を乾燥させないように、布や植物の葉などで包み数日間保管する工程であり、この段階での混入の可能性は低い。

いずれの圧痕も底面（外面）に残されていることから、④～⑥いずれかの段階で混入したと推定される。④成形は円盤状の底を作り、その上にドーナツ状の粘土紐を積み上げて行く行程である。円盤状の底を実の上から意図的に押し付けたとは考え難い。成形が終了し、⑤施文に入る段階で、一時的に土器を移動させた際、もしくは、⑤まで終了し、⑥乾燥に入る段階で別の場所に移動させた際に、土器を実の上に置いてしまったのではないか。

圧痕 14 は、凹みの底面に敷物圧痕と思われる条線が観察されることから、底面に敷物が付着した

状態で実の上に土器が置かれたと考えられる。圧痕 13 と比較して、凹みが浅く、全体的に凹み上面の縁辺が丸くなり、一部で潰れているのはこのためであろう。焼成の段階では、実が底面から脱落していた可能性が高い。圧痕 13 については、焼成段階で実が脱落していたか、底面に残されたまま焼成されたかは不明である。また、内外面の両面に凹みと重複して亀裂が観察できる。成形終了後に土器が実の上に置かれた際、もしくは、焼成中に亀裂が生じたものと推定される。

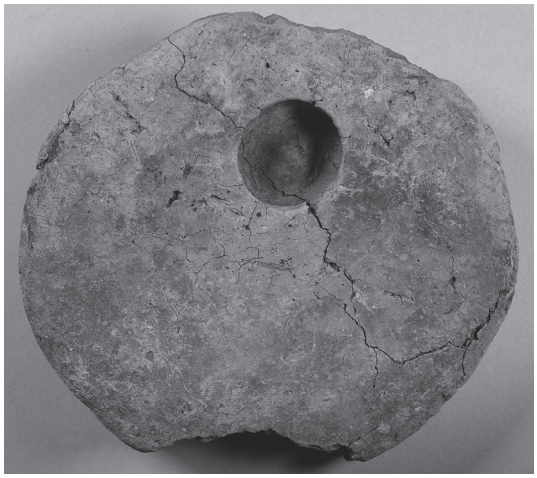
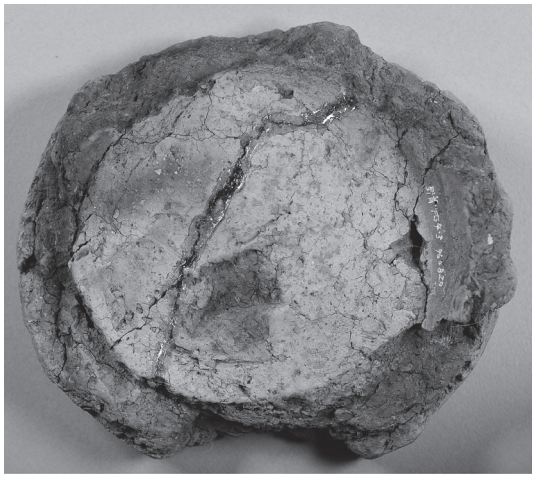



写真 14 圧痕 13 が残された土器底部（左：外面・右：内面）

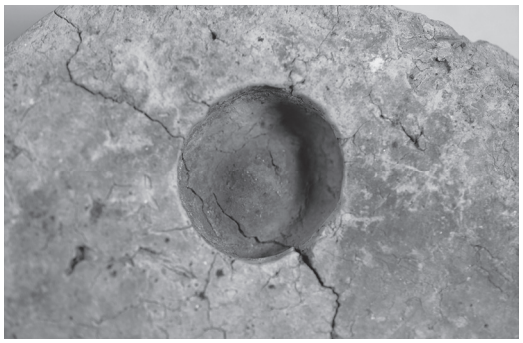


写真 15 圧痕 13

写真 16 圧痕 13のシリコン型（左）とトチの実（右2点）

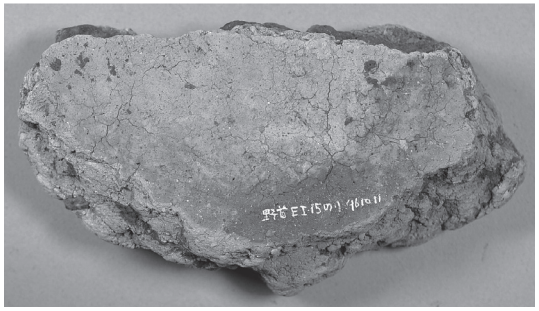


写真 17 圧痕 14 が残された土器底部（左：外面・右：内面）

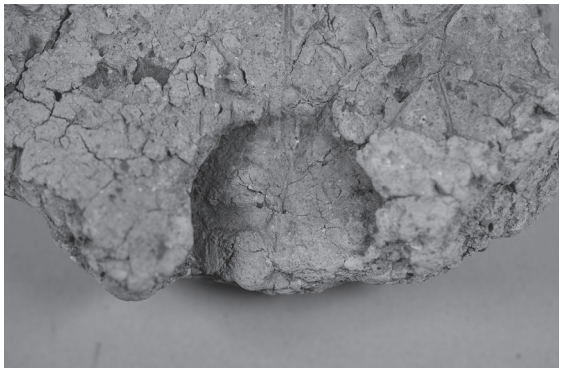


写真 18 圧痕 14

5．おわりに

近年、東日本、特に長野・山梨県内の遺跡を中心に種実圧痕をもつ縄文土器の報告事例が増え、レプリカ法による種実の同定も進んでいる。しかし、種実の混入が意図的なものか、偶然かについては決定的な結論が出ていないのが現状である。また、種実を混入した土器の焼成実験が行われ、成形後に十分乾燥させれば、土器の焼成に問題ないことも指摘されている（那須ほか 2015）。今回報告した土器底面のトチの実と推定される種実圧痕については、何らかのアクシデントにより混入した可能性が高いと考えられる。

意図的か偶然かのいずれにしても、これらの種実が存在した場所で土器作りが行われていたことは確かであり、混入した種実の分析によって土器が作られていた季節や、当時の生活環境、縄文人の食生活などを明らかにすることが可能である。なお、野首遺跡では種実圧痕の他に、イエバエの囲蛹（いよう）と同定された昆虫圧痕も存在する（矢後・丑野 2017）。今後、新潟県内において種実や昆虫圧痕をもつ土器の報告事例が増えることを期待したい。

参考文献

丑野 毅・田川 裕美 1991「レプリカ法による土器圧痕の観察」『考古学と自然科学』第 24 号

丑野 毅 2017「野首遺跡出土土器に残された圧痕のレプリカ法による観察」『野首遺跡発掘調査報告書Ⅱ』遺物編 1　十日町市教育委員会

小畑 弘己 2019「土器に混入されたタネやムシたち―多量種実・昆虫混入土器を考える―」『土器作りから土器圧痕を考える―タネやムシはどのようにして土器の中に入ったのか？―』熊本大学大学院人文社会科学研究部小畑研究室

熊本大学大学院人文社会科学研究部小畑研究室編 2019『土器作りから土器圧痕を考える―タネやムシはどのようにして土器の中に入ったのか？―』JSPS 科学研究費補助金研究成果公開シンポジウム資料

佐々木 由香・バンダリ スタルジャン 2017「レプリカ法による土器種実圧痕の同定」『野首遺跡発掘調査報告書Ⅱ』遺物編 1　十日町市教育委員会

千葉市立加曽利貝塚博物館編 1995『縄文土器のつくり方』

十日町市教育委員会編 2011『野首遺跡発掘調査報告書Ⅰ』遺構編

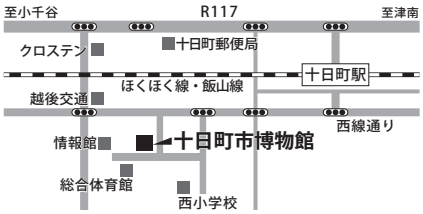
十日町市教育委員会編 2017『野首遺跡発掘調査報告書Ⅱ』遺物編 1

十日町市教育委員会編 2020『野首遺跡発掘調査報告書Ⅲ』遺物編 2

那須 浩郎・会田 進・山田 武文・輿石 甫・佐々木 由香・中沢 道彦 2015「土器種実圧痕の焼成実験報告」『資源環境と人類』第 5 号　明治大学黒耀石研究センター

矢後 勝也・丑野 毅「野首遺跡出土の土器片から発見された昆虫圧痕について」『野首遺跡発掘調査報告書Ⅱ』遺物編 1　十日町市教育委員会

＜利用案内＞



■開館時間　9:00 ～ 17:00（入館は 16:30 まで）

■入 館 料　一般 500 円（団体 20 人以上 400 円）
中学生以下無料
＊令和 6 年 4 月 1 日より、一般 600 円
　団体 500 円に改定
＊特別展は別途料金が必要

■休 館 日　毎週月曜日（国民の祝日の場合は翌平日）
年末年始（12 月 28 日～ 1 月 3 日）
＊冬季間は変更の場合あり

■所 在 地　〒 948-0072
新潟県十日町市西本町 1-448-9
TEL:025-757-5531　FAX:025-757-6998
e-mail:museum.10@city.tokamachi.lg.jp
https://www.tokamachi-museum.jp/

■交　　通　ほくほく線・JR 飯山線・十日町駅から徒歩 10 分
関越自動車道・六日町 IC から車 30 分
関越自動車道・越後川口 IC から車 30 分
北陸自動車道・上越 IC から車 80 分
上信越自動車道・豊田飯山 IC から車 80 分

■駐 車 場　第 1：普通車 16 台・障がい者用 2 台、第 2：普通車 26 台・大型バス 3 台

■サービス　音声ガイド貸出（日本語・英語・中国語・タイ語・フランス語・イタリア語・ポルトガル語：有料）、ミュージアムショップ、自動販売機
授乳室、多目的トイレ、ベビーカー・車椅子貸出（無料）、コインロッカー（無料）

■そ の 他　館内撮影可能（三脚・フラッシュ使用禁止）
館敷地内全面禁煙、展示室内飲食禁止（アメ・ガム含む）

＜令和 5 年度 博物館職員＞

館　長　菅沼　亘（学芸員）
副館長　村山　歩（業務係長）
　　笠井 洋祐（学芸員）
副参事　石原 正敏（学芸員）
　〃　髙橋 由美子（学芸員）
　〃　相崎 文幸
主　査　湯澤 孝予
　〃　阿部　敬（学芸員）
主　任　本柳 美紀（学芸員）
主　事　滋野 結希

会計年度任用職員　田村　薫（調査研究員）
　〃　春川 奈嘉子
　〃　山田 まり
　〃　池田 好恵
　〃　村山 亜樹

十日町市博物館 年報 第 10 号
編集・発行：十日町市博物館
〒948-0072 新潟県十日町市西本町1-448-9 TEL:025-757-5531 ／ FAX:025-757-6998
URL: https://www.tokamachi-museum.jp ／ e-mail: museum.10@city.tokamachi.lg.jp
発行日：令和 6 年(2024) 3 月 31 日　　印　刷：株式会社 みらい